

短 報

ヤマトウバナ琉球に分布 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI : *Clinopodium multicaule* (Maxim.) O. Kuntze Newly Found in the Ryukyus.

琉球からは従来クルマバナ属のものは、オキナワクルマバナ *Clinopodium chinense* とトウバナ *C. gracile* しか知られていなかった。沖縄復帰前でだいぶ以前のことであるが、故多和田真淳氏の案内で与那覇岳に登った際、クルマバナ属のものを採集した。この属の分類は難しいので同定しないままになっていたが、最近研究する機会があり調べたところ、これはヤマトウバナ *C. multicaule* に該当することが解った。これは沖縄に由来から知られているトウバナに似ているが、花が大きくて長さ7~8mmあり、トウバナが長さ約5mmなのと異なる。花がないとわかりにくい、トウバナの葉の裏面には腺点が残ど無いが、これにはまばらだけれども腺点がある。あまり明瞭な差異ではないが区別する目安になる。ただ沖縄のものは花

が咲いているのが1月で、本州のヤマトウバナが6月から10月であるのと異なるのが気になる。暖地だからなのかとも考えるが、外部の形態には本州、九州のヤマトウバナと差異は認められない。その後採集されたことを聞かないが、沖縄の山地にはもっと広く分布しているのではないと思う。

Clinopodium multicaule (Maxim.) O. Kuntze.

Distr. Honshu (westward from Kanagawa Pref.), Shikoku, Kyushu, S. Korea and Ryukyus (Is. Okinawa), new to the Ryukyus.

Hab. Ryukyus. Is. Okinawa, Yonahadake, 350m (T. Yamazaki, Jan. 9, 1964, no. 6574, TI). (東京大学理学部附属植物園)

ヤエノツクバネウツギ (大場秀章)

Hideaki OHBA : A Double-Petalled Form of *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc.

(Notulae ad Plantas Japoniae, 1)

ツクバネウツギ属では、調べた範囲でいまだ重弁品は知られていない。雄蕊が弁化して重弁化した株が松沢篤郎氏によって群馬県太田市金山から発見された。この株に付く花の大部分が重弁化している。萼も一部で二重になっているが、各環の裂片は5個あり、その長さはほぼ均等で5~7mmである。しかし、この重弁花個体では正常な雄蕊をもつ花もまれにみられる。園芸的価値に鑑み品種として記載する。

Abelia spathulata Sieb. et Zucc. var. *spathulata*

forma **duplexa** H. Ohba, f. nov.

A typo corolla vulgo duplexa differt.

Type. Japan. Honshu : Gumma Prefecture, Ota-shi, Kanayama (T. Matsuzawa s.n.,

on 1st May 1991, TI).

Mr Tokuro Matsuzawa collected a plant with double-petalled flowers of *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc. at Kanayama, Ota-shi, Gumma Prefecture, east Honshu. It seems to be the first report of double-petalled flowers in *Abelia*. The inner petals are usually five, close each other, introrse, variable in shape, bearing on the outer corolla at the position of stamen in the normal flower, and located at the throat of the outer corolla. The plant also produces a small number of normal flowers with normal stamens. The calyx, with five, nearly equal-sized lobes, also sometimes doubles.

(東京大学総合研究資料館)